

福島第一原子力発電所「サブドレン」の運用開始にあたって ～安全で確実な運用と安心につながる情報公開を～

2015年9月14日
一般社団法人 日本原子力産業協会
理事長 高橋 明男

本日、福島第一原子力発電所の「サブドレン計画」による浄化した地下水の海洋放出が実施され、汚染水対策が大きく前進した。

既に実施されている地下水バイパスに続き、汚染水対策として非常に大きな効果が期待される取り組みであり、地元漁業関係者をはじめとする多くの皆さまのご理解とご協力に改めて感謝を申し上げたい。

この計画は、原子炉建屋の周辺に設置されたサブドレン（井戸）にたまった地下水を汲み上げ、浄化した後に放射能濃度を確認した上で放出するもので、原子炉建屋に流入している地下水を現状の1日当たり約300トンから半減させる効果が期待されている。

本計画の運用にあたっては、原子炉建屋内にたまった高濃度の汚染水と地下水の水位管理を徹底し、建屋内に滞留した汚染水が外に漏れないよう、より一層厳密な管理が欠かせない。

また、浄化した地下水の放射能濃度分析を東京電力と第三者機関が行い、[運用目標*](#)を下回ることを確認した上で、放出することとしている。

この運用目標は、国が定めた告示濃度の数十分の1、世界保健機関（WHO）の飲料水水質ガイドラインに対しても10分の1程度、と極めて低く設定された地下水バイパスのそれをさらに厳格化したものである。国内はもとより、近隣諸国をはじめとした海外でも、事故に伴う海洋汚染や海産物に対する不安が今でも見られる。分析した数値や放出状況、海側の放射能濃度などと併せて、このように厳しく、より安全サイドに立った運用管理が行われていることを様々なルートで幅広くお伝えすることで、安心につなげなくてはならない。

東京電力には、実施に先立ち関係者と交わした約束を着実に履行し、確実な管理、運用と継続的な情報発信をお願いしたい。

当協会でも、福島第一の廃炉作業の進捗、汚染水対策の状況などについて、国内外に向けて引き続き積極的な情報発信に努めてまいりたい。

以上